

第6期埼玉県障害者支援計画に盛り込む主な施策(案)

団体ヒアリングにおける意見より

No	施策番号	施策の内容	担当課	団体名	意見
1	新	障害者の多様な働き方(テレワーク、短時間勤務など)を支援します。		埼玉県精神障害者社会福祉事業所運営協議会	インクルーシブ(多様性のある)な働き方の観点が重要なのではないか。
				埼玉県精神障害者家族会連合会	精神障害がある人が働きやすい環境のために「超短時間労働」の導入の検討(改正障害者雇用促進法)
				埼玉県障害者協議会	コロナ禍で、社会構造の変化、事業の転換、ICT化、AI化が加速する中で、障害者雇用も変化していくものと思われる。
				埼玉県障害難病団体協議会	難病患者テレワーク、リモートワーク等の在宅就労の推進。
2	新	聴覚障害者の情報保障のため、県が行う知事の記者会見に手話通訳を配置します。		埼玉県聴覚障害者協会	県知事の会見には手話をつけること。
				障害者の生活と権利を守る埼玉県民連絡協議会	知事の記者会見に手話通訳者を恒常的に設置。
3	新	福祉教育や社会教育のため、障害当事者による講演ができるような仕組みを構築します。(仮称ヒューマンライブラリ)		埼玉県精神障害者家族会連合会	社会が、精神疾患・精神障害に関する正しい認識をもつためには、正しい知識を伝える必要がある。テキスト配布や講義にとどまらず、精神障害のある人との交流も含めた教育の機会が必要。
				埼玉県手をつなぐ育成会	・差別解消法や虐待禁止法は関係者以外には知られていない。障害者とその他のでは溝がまだまだ深い。無理解が原因なのでお互いが知り合う環境が必要 ・地域社会(特に自治会)への啓発を真剣に進めないと共生社会の実現は困難。行政の踏みこんだ協力が必要
4	新	点訳、音訳、アクセシブルな電子データ製作等に携わる人材について、製作基準の共有やノウハウ等の習得に係る研修の取組を支援し、質の向上を推進する。また、人材の募集や養成、活動支援等に計画的に取り組む。		埼玉県視覚障害者の生活と権利を守る会	コミュニケーション手段の充実にIT化を(点字図書館の代わりにサピエ図書館、スマホ等を使った研修など)
5	新	障害福祉サービス等の質を向上させるための取組を実施する体制を構築する。		埼玉県障害者協議会	数値目標の達成も大事だが、福祉サービスの質の向上も重要
6	76	障害者の地域での自立生活のため、グループホームなどの整備、運営を支援します。また、グループホームなどのサービスの質の向上のため、職員に対する研修などの取組を行います。		きょうされん埼玉支部	(グループホーム)質が悪い。認可要件を県独自に
				障害者の生活と権利を守る埼玉県民連絡協議会	グループホームについては、福祉活動としてでなく、企業ベースの活動になりつつあり、利用者ニーズそっちのけで数だけが追求しているが、数でなく、内容に特化する必要がある。
				埼玉県発達障害福祉協会	グループホームでは、さまざまな業態の参入が増えており、中には営利を追求して、悪質な事例が増えている。
7	新	障害福祉サービス事業者からの運営や人材育成など専門的な相談などにも対応できる体制を構築します。		埼玉県発達障害福祉協会	市町村や委託相談支援、当発達障害福祉協会とも連携して、運営上の助言や職員育成など、地域でフォローアップできるような仕組みづくりをお願いする。
8	新	障害福祉サービス等の提供を担う人材を確保するため、研修の実施、多職種間の連携の推進、障害福祉の現場が働きがいのある魅力的な職場であることの積極的な周知・広報等に、関係者が協力して取り組む。		障害者の生活と権利を守る埼玉県民連絡協議会	施策を支える人材不足は目を覆うばかりである。
				埼玉県発達障害福祉協会	福祉人材確保が危機的状況。官民の関係機関による協議の場の設置(地方からの新卒学生の確保に向けた施策の構築(就職支度金制度など)など)